

「手稲の川と林の生きものガイドブック作成」報告

手稲さと川探検隊

当会ではこれまで10年間、子供達の自然体験を主な目的として「川・森の生きもの調べ」等を行ない、「手稲の川の生きものマップ」等も作成し、普及・啓発してきた。

今後も継続して住宅地に隣接する川に加えて山麓の林においても、身近な地域での自然を守り育てる自然体験活動の普及をすすめるため、活動を通じて生き物ガイドブックを刷新し普及・啓発のため配布、今後の調査・保全活動のために活かすことが必要と考え、これまでの「生きものガイドブック」を刷新し、『手稲生きものハンドブック』5,000部を作成し、会員以外の市民や子ども達への普及・啓発も行なっていくこととした。

調査に際しては専門家に指導と詳細な同定をお願いし、会員および一般公募の児童約100名を含む約200名の参加で、森で4回、川で2回（1回は中止）の計6回の生きもの調べを実施した。

多くの児童を含む参加があり、春は冷たい風雨に見舞われながらも野鳥を観察し、初夏の川の上流ではカゲロウやトビケラの幼虫を、川の下流ではウキゴリやヤマメ、スジエビやモクズガニを自らの手で捕まえ、夏の森ではコウモリを見つけるとともに、そこに暮らすさまざまな生きものを漆黒の闇の中で感じ、秋の森では何年もそこで暮らし続ける樹木に触れ、さらに伐られてからも生き続ける木材で楽器をつくり楽しんだ。夏に捕獲した水生生物たちの標本の大雑把な違いや細かい特徴を良く観察して分類計数してその多様さに驚き、冬の森ではさまざまな樹木の冬芽の美しさや獣たちの痕跡に胸躍った。

参加した子どもたちや保護者もスタッフも、身近に暮らす生きものたちを発見し探し捕まえる楽しさを存分に味わうとともに、自然の豊かさや環境による生物相の違いを知り、この自然環境を守り育てていく気持ちが育ったように思う。

また作成した『手稲生きものハンドブック』は今後地域市民や子ども達へ配布を行ない、普段あまり関心のない都市部の身近な自然に暮らす生きものの存在と適した環境について普及・啓蒙を行なっていくとともに、今後も生きもの調べやモニタリングを通して多くの市民の自然体験・遊びの機会を提供し、この大切な自然を将来にわたって守り、育て、子どもたちが日頃から自然の中で遊び学べるよう、楽しく活動を展開していきたい。

